

学会参加奨励金報告書

学籍番号：R22-024

名前：垣立麻鈴

学会名：KIMES&ソウル特別市放射線士会学術大会 (SRTA)

開催場所：韓国・ソウル

開催期間：2025 年 3 月 20 日～2025 年 3 月 23 日

発表セッション名：発表なし

発表形態：発表なし

発表日時：発表なし

1. 学会の概要

本学会では、最新の研究成果や放射線技術の最新動向などといった、多岐にわたるテーマが取り上げられていた。今回の学会を通じて、放射線技師としての知識を深め、今後に活かせる貴重な学びを得ることができた。学会では主に、プレゼンテーションや機器展示などのセッションが設けられていた。AI を活用した画像診断の最前線から放射線被ばくによる医療安全など幅広いテーマであった。

2. 学会参加の感想

特に印象に残ったのは、AI 診断アシスタント機能を超えたユーザーフレンドリー技術を搭載したプレミアム超音波診断装置とデジタル X 線撮影システムである。テクノロジーを駆使したプレミアム超音波診断装置「HERA Z20」は、革命的な AI テクノロジーによって使いやすさを向上させ、放射線科医の負担を低減させるものであった。感銘を受けたのは、HERA Z20 に搭載されている診断補助で EzVolumeTM という機能である。これにより、超音波画像をリアルタイムで自動分類し、ワークフロー簡素化を行うことで診断時間を短縮できる。また、胎盤や子宮、羊水、胎児の顔と体を自動的に分割できる。また、Portrain VueTM という機能は、3D 超音波分析により、妊婦は胎児の顔を予測したり、ぼやけているところや隠れているところを仮想的に復元し、胎児の仮想画像を見ることができる。実際にみた超音波画像は高精細なもので、とても興味深いものであり、心が引かれた。

全体を通して、AI が画像診断を補助することでの優れた点や、AI を活用する上での技術や論理的課題について詳しく説明されていた。導入による診断精度の向上や業務効率化についても説明を聞き、AI 技術が放射線技師の業務において重要なツールとなっていることを再認識した。

プレゼンテーションにおいては、医療従事者の潜在的な安全性の懸念についての発表が印象に残った。被曝に対する認識の現状や予防措置としての実行活動の不足など

の課題があり、事故前後の対する認識の向上が必要であることを再認識する機会であった。放射線診断における大きな課題の一つである患者の被曝低減は、私たちにとっても身近で重要な課題であり、考えさせられることが多数あった。今回の学会に参加したことにより、最新の医療技術や研究に触れることができた。

4. 現地参加がわかる写真

